

日本英語教育史学会 会報

313

2023 年 2 月 13 日

HiSELT *Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan*

日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人 日本英語教育史学会 (代表: 田邊祐司)

 事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562
 県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
 tel: 0824-74-1727 fax: 0824-74-0191
 e-mail: membership@hiset.jp

 会費納入口座 (名義人: 日本英語教育史学会)
 ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
 ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト www.hiset.jp

第291回研究例会報告

2023 (令和 5) 年 1 月 7 日 (土), 第 291 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 29 名でした。

例会では 2 つの研究発表が行われました。最初の研究発表では, 柗木貴之氏 (北海学園大学) が「石橋幸太郎の英語教育論: 国語教育との連携を中心に」というタイトルでお話しされました。続いている「自著を語る」では, 指定討論者に孫工季也氏 (京都大学大学院生) を迎え, 著者の広川由子氏 (千葉県立保健医療大学) が『戦後期日本の英語教育とアメリカ: 新制中学校の外国語科の成立』(大修館書店, 2022 年 3 月) について発表を行いました。司会は若有保彦氏 (秋田大学) でした。以下に参加者の感想を掲載しますのでご参照ください (①は柗木氏, ②は広川氏及び孫工氏の発表への感想, ③は会全体に対する感想です)。

<発表 1 の感想>

- ◆石橋先生の学生時代に自分で何の勉強が必要なのか考えたそれを実際にやるということが, 自分にも必要だと感じました。また, 英語は国語と深く関わっており, 英語の勉強だけではなく正しい日本語の訓練にも力を入れなければならないこと, 話す練習をすること, それを石橋先生が当時から大事にしていたことを学びました。日本語も英語もことばということを忘れずにどちらも学んでいきたいです。私にとっては, 今まで触れたことのない難しい内容でしたが, 学びのある時間となりました。(匿名希望)
- ◆とても興味深いご発表をありがとうございました。ローマ字指導についての点から, 国語科と英語科の連携について興味関心があるので, 大変参考になりました。ありがとうございました。(堀由紀)
- ◆非常に興味深いご発表をありがとうございました。国語力がないと英語力は伸びないという話がありますが, まさに国語教育と英語教育は相補的關係にあるということ強く感じました。同じ「ことば」を学ぶ教科として上手く連携することができれば, 日本人の英語力はもう少し向上するのでしょうか...(横山夏美)
- ◆今回初めて石橋幸太郎について学ばせて頂きました。彼が戦後英語教育と国語教育の連携について述べていたことは, 今日の言語教育についても通ずるものばかりだと感じました。また, たくさんの過去の資料に紹介されていた英語教授法についてもあらためて学ぶ部分が大きくと

でも学びの多いお話しをありがとうございました。(匿名希望)

◆石橋幸太郎氏についての興味深いご発表をありがとうございました。ご発表で「戦後の英語教育を代表する研究者でありながら、石橋の英語教育論を検討する研究はほとんど見られない」と、柁木先生の問題意識について述べられていましたが、なぜそのような重要な研究課題が見逃されてきたのか知りたいと思いました。(広川由子)

◆英語という教科が、英語のみで完結する教科ではないということを改めて実感させられました。特に、普段田邊先生の通訳入門の授業を受けている際、自分の「国語力」の不足を実感することがあるため、英語教育の、国語教育との連携の大切さを、研究発表を通して身に染みて感じました。(匿名希望)

◆いつもながら綿密な調査と明快なプレゼンで、説得力のある学びの多いご発表でした。石橋幸太郎が抱いていた英語教育と国語教育との連携を考える際に、師である岡倉由三郎の影響をより深く考究されてはいかがでしょうか。岡倉由三郎は国語学者でもありましたし、柁木先生が考察されたように、日本における英語教育と国語教育の連携を語る上で欠かせない人物です。1935年には国語を含む言語問題を総合的に研究する『言語問題』を創刊しています(この雑誌の研究は不可欠です)。その前年には臨時ローマ字調査委員や国語審議会委員にも任命されていました。晩年の岡倉にとって「ローマ字問題こそは(中略)国家百年のために、苦心奮闘全く寝食を忘れて御盡しになった問題であった」(村岡博「岡倉由三郎先生略伝」『英語教育』増補版附録, 1937)わけです。その意味で、岡倉のローマ字研究について考察され、さらに岡倉の石橋への影響関係を把握することは重要だと思います。ちなみに、石橋が『意味の意味』で岡倉賞を受賞したのは1936年です。何か匂わないでしょうか。(みかん舟)

<発表2の感想>

◆戦後の英語教育とアメリカの関わりの歴史を詳しく知ることができました。アメリカが英語教育を強要したのではないかと最初は思っていたのですが、日本にも英語教育を望んでいる生徒がいたということも知ることができました。私は小学四年生の時に英語の授業が始まったので、1947年まで外国語科を規定していなかったこと、文部省が消極的だったことに驚きました。また、もちろん内容もですが発表の仕方もとても勉強になりました。難しい内容でしたが、資料も多くあって楽しく聞くこともできました。(匿名希望)

◆先生のご著者を先に読んでいなかったため、理解不足のところもありましたが、とても勉強になりました。(堀由紀)

◆広川先生、運営の先生方、大変お疲れ様でした。占領期を語るに当たっては、GHQによる間接軍政の影響は避けては通れない点であり、その点に着目し、史料を丹念に収集した広川先生の研究は本にしておきたいという思いでお声をかけました。本日のご発表で、いろいろなご意見が出てくるテーマであることを改めて実感できました。ありがとうございました。(大修館書店 高橋)

◆戦後の英語教育改革について個人的に興味があったので、ぜひ先生のご著書を読ませて頂きたいと思いました。文部省が当時、義務教育としての英語教育を回避しようとしていたということに驚きました。(横山夏美)

◆数々のアメリカの資料など興味深いものばかりでした。どのように戦後日本の中学校教育の中に英語教育が入ってきたのかということを知ることができ非常に勉強になりました。ありが

ありがとうございました。(匿名希望)

◆江利川先生のご意見を聞いて、また当方の発言を振り返り、高等小学校(国民学校高等科)と新制中学校の連続性といった時の「連続」の意味が、江利川先生と当方とでは異なっていたのではないかと感じました。そのため「連続性」とは何かを事前に定義しておくことが議論の前提だったと反省しています。(広川由子)

◆今まで、詳しく耳にしたことがなかった戦後期の日本の英語教育に関して、詳しく知ることができ、とても貴重な時間を頂けたなと感じました。広川様の講演に対する討論も、学生同士の討論では見られないほど様々な観点から盛り上がっており、このような討論を行うために、自分も大学での勉強に真摯に取り組まなければならないなと思いました。(匿名希望)

◆これまでの日本英語教育史研究では未開拓だったアメリカ側の資料を博捜し、戦後の新制中学校における英語教育の成立事情と教科書編纂の真実を明らかにされた、研究史を塗り替えるご研究で、高く評価できると思います。ここに至るまでの驚異的な努力に深く敬意を表します。これだけ高度な研究をされたわけですから、今後はさらに自信と余裕をもって、先行研究の正確な理解と、細部に至るまでの精緻な記述に努力されることを願っています(校正が1回しか許されなかったとのことで、誤記・誤植が多い理由がわかりました)。これからの日本英語教育史学会を担う気鋭の研究者として、大いに期待しています。(みかん舟)

<会全体に対する感想>

◆本日はありがとうございました。(堀由紀)

◆12, 3年ぶりに研究会に参加させていただきました。たいへん刺激的なご発表と討論をありがとうございました。来年の授業が始まるまでの間に読み進めたい本なども知ることができた有意義な3時間で、今後もできるだけ時間を見つけて参加したいと思います。(高屋景一)

◆本日はありがとうございました。今回も様々な知識と情報を得ることができ、貴重な学びの機会となりました。また、参加の申し込みが遅れてしまい大変申し訳ございませんでした。(横山夏美)

◆オンライン研究会の為、参加もしやすくありがたいです。前日の申し込みとなってしまう申し訳ございませんでした。(匿名希望)

◆大変よい会をありがとうございます。(広川由子)

◆とてもスムーズな進行で、初めて参加させて頂きましたが、とても楽しく研究例会を見ることが出来ました。ありがとうございました。(匿名希望)

発表を終えて

榎木 貴之(北海学園大学)

1月例会では私のつたない発表にコメントをくださり、ありがとうございました。

質疑応答で焦点となったのは、石橋幸太郎の1930年代の論考についてです。石橋の「国語教育との連携」に関する提言につきまして、私はこれまで1960年代の論文に注目しておりましたが、石橋が東京高等師範学校附属中学校に着任し、研究を開始した1930年代にも「連携」の提言はあるのではないかと、というご指摘にはなるほど、と思いました。

さっそく調査を開始したところ、『言語問題』および『中等教育研究』における石橋の論文に、

「英文法と国文法の連絡」に関する記述を発見しました。これらの論文を基にさらに研究を進め、5月の全国大会で発表をしたいと考えております。

コメントをくださった竹中先生、拝田先生、二五先生、馬本先生、江利川先生、そして司会の若先生に心よりお礼申し上げます。とくに竹中先生は、発表の翌日に関連資料を郵送してくださいました。この場を借りて、あらためてお礼の言葉を述べたいと思います。

また皆様にお目にかかるのを楽しみにしております。

発表を終えて

広川 由子 (千葉県立保健医療大学)

今回は、自著を語るという貴重な機会を設けてくださり、会員の皆様に心より感謝申し上げます。何より江利川先生と議論できたことで、新たな視点を獲得することができたと大変嬉しく感じています。拙著の問題点も浮き彫りになりました。拙著の欠点は、高等小学校と新制中学校の非連続性を正面から論じきれていないことだと思います。これはアメリカ側の資料を見るのに精一杯だったからですが、「非歴史的」の意味を十分説明しきれていないことに猛省しております。この場を借りて補足させてもらえれば、高等小学校の英語科の学習者が30万人だったと言うのなら、新制中学校の外国語科の学習者数も少なくとも30万人いたことを明らかにする必要があるのではないかと、この意だったのですが、その点をきちんと説明できていませんでした。しかしこれは私の新たな課題となり、今回の発表の一番の成果だと考えています。これも指定討論者の孫工先生の鋭い質問のおかげであり、孫工先生には深く感謝申し上げます。今後も拙著を土台にさらに研究を発展させたいと考えています。そのことが日本英語教育史学会の発展に少しでも貢献することにつながればとの思いを込めて。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

発表を終えて：広川由子氏に対する指定討論者として

孫工 季也 (京都大学大学院生)

第291回研究例会において、指定討論者という重役を頂戴しましたことに心より御礼申し上げます。僭越ながら、広川先生が使う「歴史」は何を意味するのかを問いました。それに対し、先行研究に依拠したとのご回答。なるほど巨人の肩の上に立ったのかと思っていると、そこから先行研究をどう受け止めたのか、どの資料をどう読み解いたのか、というフロアを巻き込んだ議論へと発展。学び多き研究会だったな、と振り返りを贅沢な肴に晩酌を楽しみました。

せっかくなので、なぜ先生に「歴史」の意味を問うたのかを共有させていただきます。「歴史」は時間の経過を経て自然と生まれるのか、それとも何/誰か(ら)によって創られるものか。後者については酒井直樹が「歴史化」という言葉を基に説明しています。英語教育史を研究するという界に属する私たちにとってあまりにも身近な言葉である「歴史」。界の中では自分たちが自明とする眼差しに気づきにくくなると言われます。だからこそ私たちが「(非)歴史」と捉えるものはなにか、そこに境界線があるとすればそれはどのような合理性の基に成り立っているのか、また私たちが「(非)歴史」と認定することで周りにどのような影響を及ぼすのか、そのようなことをお尋ねしつつ、また皆さんと考えてみたかった次第でした。

当日は何より自分の不勉強さを痛感しました。引き続きご指導ご鞭撻を頂戴できますと大変嬉しく思います。

>> 事務局より

>> 理事会を開催

1 月 22 日 (日) 19 時よりオンラインで 2022 年度第 2 回 (定例) 理事会が開催され、以下の件が話し合われました。

(1) 第 39 回全国大会 (神奈川大会) について

本年 5 月に神奈川大学みなとみらいキャンパスを会場にハイフレックス形式で開催予定の第 39 回全国大会 (神奈川大会) について、担当理事より示された案に基づいて議論し、その概要を決定しました。詳細は 6~7 ページをご覧ください。

(2) 紀要『日本英語教育史研究』第 38 号について

今年度の審査結果ならびに学会賞の候補について、論文審査委員会より報告を受けました。審査については、1 本が研究ノートして掲載との結果になっています。

また、編集委員長より目次および編集の進捗状況について報告を受けました。例年通り、5 月の全国大会の際に発行の予定です。

(3) 著作賞候補について

選考委員会より著作賞の候補が示され、選考を進めることが報告されました。

(4) 次期役員体制について

会長・副会長の任期満了にともない、今年度の全国大会時に開催される会員総会において役員選挙を行うことを確認しました。

(5) 選挙管理委員会の設置について

次期役員選挙に関しては事務局が選挙管理を担うこととし、6 ページに掲載の通り立候補を受け付けることを決めました。

(6) その他

理事が担当する職務を円滑に進めるためのサポート体制について議論しました。

(文責：事務局長)

>> 会費納入について (お礼とお願い)

会費の納入にご協力くださりありがとうございます。本会の会計年度は 4 月より翌年の 3 月までとなっております。今年度および昨年度の会費を未納の方は年度末までにご送金くださいますようお願い申し上げます。

未納のみなさまへのご案内は順次お届けいたしますが、事務作業が遅延することもございます。ご心配な方は事務局までお問い合わせください。

なお、2 年連続して会費の納入がない場合には退会の手続きを取らせていただくことになっております。該当の方には年度末までに連絡申し上げますので、よろしくご対応くださいますようお願いいたします。

年会費 一般：5,000 円／学生：3,000 円 (学生会員は初年度に限り無料となります)

- 送金先 【1】 ①郵便局で払込取扱票をご利用の場合
②ゆうちょ銀行の総合口座よりご送金の場合
→ ゆうちょ銀行 [振替口座] 00150-3-132873
- 【2】 ゆうちょ銀行を除く金融機関の口座よりご送金の場合
→ ゆうちょ銀行〇一九 (ゼロイチキュウ) 店 [当座口座] 0132873

【公示】次期会長・副会長の選挙について

一昨年の全国大会で選出された田邊会長、馬本・久保野両副会長は、本年 5 月をもって任期満了となります。次期会長・副会長については第 38 回全国大会の際に開催される会員総会において互選しますが、それに先立ち、事務局内に選挙管理委員会を置き立候補を受け付けます。立候補者は、3 月 15 日 (水) までに任意の書式をもって郵便、信書便もしくは電子メールで選挙管理委員会までお届けください。

*立候補の届け先

郵便・信書便の場合：〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地 県立広島大学
河村和也研究室気付 日本英語教育史学会選挙管理委員会

電子メールの場合：membership@hiset.jp

日本英語教育史学会第 39 回全国大会 (神奈川大会) のご案内

先にメールでもご案内しておりますが、第 39 回全国大会を下記の通り開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

期 日：2023 年 5 月 20 日 (土)・21 日 (日)

形 態：ハイフレックス

会 場：【対面】神奈川大学 みなとみらいキャンパス 1F 米田吉盛記念ホール

【オンライン】Zoom

記念講演には、理論言語学、言語脳科学、英語学などの幅広い専門分野に関する数多くの論文・書籍を世に出され、国際的にも大変ご高名な中島平三先生をお招きできる運びとなりました。東京都立大学や学習院大学で教鞭を執られ、日本英語学会会長、一般財団法人語学教育研究所理事もお務めになられた中島先生独自の視点から、実用主義と教養主義を再考するお話を頂く予定です。

「梯子を外される前に英語教育史を (仮)」

中島平三氏 (東京都立大学名誉教授・日本英語学会元会長)

◆ 研究発表について

大会での研究発表を募集いたします。発表希望者は、(1) お名前 (2) ご所属 (3) 連絡先メールアドレス (4) 発表題目 (仮題でも可としますが、なるべく確定版に近いもの) (5) 大会発表賞への参加の有無 (6) 発表形態を明記のうえ、**3月17日(金)**までに電子メールでお申込みください。全国大会では積極的な採択が行われますので、どうぞ奮ってご応募ください。

メール送信先：大会実行委員会 taikai@hiset.jp

- ・発表形態を問わず、研究発表はプログラムで割り当てられた時間内に「リアルタイム」で行うものとします（事前に収録した発表動画の再生も可）。発表者入替え・質疑応答を含めて、発表時間は 30 分（発表 20 分，質疑応答 5 分目安）です。
- ・研究発表をお申込みの方には、ご発表の内容を 1,000 字程度にまとめた要旨の作成をお願いいたします（**4月14日(金) 必着**）。

◆ 大会へのご参加について

- ・大会参加のお申込みは、研究例会と同様、学会ウェブサイトから受け付けます。オンラインでのご参加をお申込みいただいた皆様には、Zoom ミーティングの ID とパスコードを通知します。
- ・大会参加費：会員・学生 無料 非会員 1,000 円
- ・大会参加申込み用オンライン・フォームの URL を含む詳細につきましては、メール、および、次号会報にてお知らせいたします。
- ・大会プログラムにつきましては、次号の会報をお待ちください。

)> この先の研究例会・全国大会

- ◆ 第 292 回研究例会 2023 年 3 月 18 日 (土) オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は、(1) 発表希望月、(2) タイトル、(3) 発表概要 (100~200 字程度)、(4) 使用予定機器、の 4 点を明記の上、発表希望月の 3ヶ月前の 10 日 (9 月発表希望であれば 6 月 10 日) までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiset.jp

)> 英語教育史フォルダ

- ◆ 江利川春雄 (著) 『英語と日本人：挫折と希望の二百年』がちくま新書より刊行された。定価は 920 円 (税別)。

日本英語教育史学会 第 292 回 研究例会

日 時： 2023 年 3 月 18 日 (土) 14:00～17:00

オンライン開催 (申込方法については、学会ウェブサイト (<http://hiset.jp>) 内の「オンラインによる研究例会参加方法」をご参照下さい。)

研究発表

長谷川清『自己表現の歴史と理論』の英語教育史上における位置

惟任泰裕 (中九州短期大学)

【発表者から】本発表の目的は、長谷川清 (1909～2008) が『新英語教育』誌上で発表した「自己表現の歴史と理論」(1973 年第 68 号～1974 年第 75 号) を、英語教育史上に位置づけることである。岡山県の英語教師であった長谷川は、「英語・英文学の研究を土台として置きつつ、民間教育研究団体にも精力的に参加し、英語教育における教科指導と生活指導の統一を目指した」人物である。「自己表現の歴史と理論」は、英語教師による教育実践の理論化の試みとして注目すべき事例であるが、これまで検討は加えられていない。そこで本発表では、①長谷川の経歴と活動を紹介したうえで、②英語教育における「自己表現」の実践的な展開を整理し、③「自己表現の歴史と理論」の内容を検討することとしたい。

自著を語る

江利川春雄著『英語と日本人—挫折と希望の二〇〇年』 (ちくま新書, 2023 年 1 月)

江利川春雄 (和歌山大学名誉教授)

指定討論者：上野舞斗 (四天王寺大学)

【発表者から】次の世代に外国語学習の挫折でなく希望のバトンを渡したい。そのために、幕末からの英語と日本人の関係史をたどり、失敗と成功の足跡を検証することで、英語との付き合い方を考えたい。そんな思いで執筆しました。現在と過去を自由に行き来し、先人に学びながら、英語教育政策批判と未来への展望も提起しました。人間臭いエピソードや自分の体験も交え、柔らかい文体で書いたので、英語教育史を身近に感じてもらえれば嬉しいです。

参加費： 無料

問合せ： 日本英語教育史学会例会担当 (reikai@hiset.jp)

EDITOR'S BOX 新型コロナウイルスの第 8 波の感染拡大がようやく収まりつつあります。／今年の冬に感染対策よりも気を遣ったのは 1 月下旬からの寒波への対応でした。秋田に来て今年で 16 年目になりますが、初めてマイナス 10℃に迫る状況を経験しました。／水道管の凍結を避けるためにお湯を (非常に少量ではありますが) 出しっぱなしにしたり、室外機が凍らないように、普段は極力つけないようにしているエアコンをつけっぱなし (15～18℃設定ですが) にするなど、これまで節約してきた水や電気を強制的に使われるのは精神的にも苦しいものがありました。これから来る電気代の請求も気になっています。(若)

◎ 日本英語教育史学会会報編集部 (秋田大学 若有研究室 wakaari@nifty.com)